

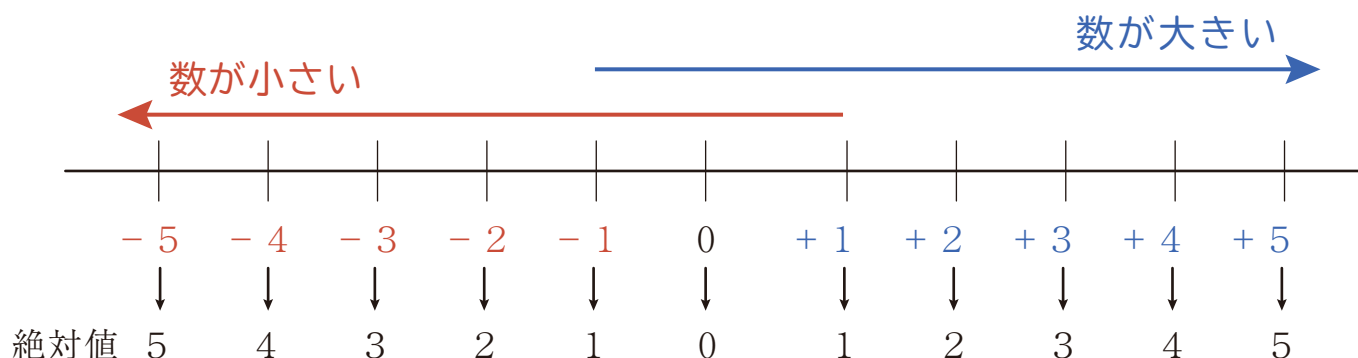
数の大小

正の数、負の数の大小は、次のように考える。

- ・正の数は、負の数よりも大きい。
- ・正の数は、絶対値が大きいほど、その数は大きい。
- ・負の数は、絶対値が大きいほど、その数は小さい。

※絶対値とは：数直線上で、原点(0)から、ある点までの距離を絶対値という。

数直線上では、右に行くほど数が大きく、左に行くほど数が小さい。



分数や小数の大小

- ・分母と分子の数が異なる分数は、通分して大小を考える。

$$-\frac{3}{4} \quad \text{と} \quad -\frac{2}{3} \quad \text{の数の大小}$$

$$\downarrow \quad \downarrow$$

$$-\frac{9}{12} < -\frac{8}{12} \quad \text{と通分して解く。}$$

- ・帯分数は、仮分数にして大小を考える。

$$-1\frac{2}{3} \quad \text{と} \quad -1\frac{5}{6} \quad \text{の数の大小}$$

$$\downarrow \quad \downarrow$$

$$-\frac{10}{6} > -\frac{11}{6} \quad \text{と仮分数にして解く。}$$

- ・小数は分数にして、通分して大小を考える。

$$-0.3 \quad \text{と} \quad -\frac{2}{5} \quad \text{の数の大小}$$

$$\downarrow \quad \downarrow$$

$$-\frac{3}{10} > -\frac{4}{10} \quad \text{と小数は分数にして、通分して解く。}$$